

ビロイ+mFOLFOX6 療法

患者番号: 氏名: 性別: 年齢:

がん種 (適応)	胃癌 (CLDN18.2 陽性 HER2 陰性)		
開始年月日	年 月 日	1 コース期間	14 日間
体格	身長 cm	体重 kg	体表面積 m ²
嘔気・嘔吐リスク	高度	制吐剤	アロカリス注 +パロノセトロン注 +デキサート注 9.9mg +デカドロン錠 4mg2錠 2×(day2-3)
特記事項	オキサリプラチンは 6 コース目以降アレルギー症状に注意が必要です。アレルギー予防に前処置としてデキサート注 16.5 mg、ファモチジン注 20 mg、レスタミン錠 50 mgで効果があったという報告があります ※ビロイについての詳細な注意点は次ページを参照ください		

投与薬剤	投与量	投与時間	投与スケジュール
ビロイ	初回 mg (800mg/m ²) 2回目以降 mg (400mg/m ²)	※2 時間 以上	Day1
オキサリプラチン (12 回まで)	mg (85mg/m ²)	2 時間	Day1
レボホリナート	mg (200mg/m ²)	2 時間	Day1
5-FU (急速静注)	mg (400mg/m ²)	15 分	Day1
5-FU (持続静注)	mg (2400mg/m ²)	46 時間	Day1

【処方が必要な内服薬】

デカドロン錠 (4) 2錠 2×朝昼食後/2日分 (翌日より開始)

- HBs 抗原(+) → 消化器内科紹介
- HBs 抗原(-) → HBs 抗体(-)and HBc 抗体(-) → HBV-DNA 定量(-) → 3ヵ月毎 定量
- HBs 抗体(+)-and/or HBc 抗体(+)
- HBV-DNA 定量(+)
- HBV-DNA 定量(+)

指示医師サイン _____

ピロイの投与に関する留意事項

ピロイ点滴に起因する突発的な嘔吐が出現する可能性があります。
初回は**ガーグルベースン**を必ず準備しておいてください。
(2回目以降は前回治療の状況により対応してください)
嘔吐があった場合は症状が落ち着くまで中断し、1段階減速して投与を再開します。

●点滴速度について

総輸液量 (mL)	~299	300 ~399	400 ~499	500 ~599	600 ~699	700 ~799	800~
開始 ~30分	25 mL/時	35 mL/時	50 mL/時	60 mL/時	75 mL/時	85 mL/時	100 mL/時
30 ~60分	50 mL/時	70 mL/時	100 mL/時	120 mL/時	150 mL/時	170 mL/時	200 mL/時
60 ~90分	75 mL/時	105 mL/時	150 mL/時	180 mL/時	225 mL/時	255 mL/時	300 mL/時
90分~	100 mL/時	140 mL/時	200 mL/時	240 mL/時	300 mL/時	340 mL/時	400 mL/時
悪心 G2 嘔吐時	投与を中断し、症状が改善したら1段階減速して再開する。 (悪心G2は食事が通常通り摂れないくらいのむかむかの程度です)						

●総輸液量は 2mg/ml となるように調整する

- (A) 総輸液量 (mL) = ピロイ投与量 (mg) ÷ 2 mL
- (B) ピロイ溶解液量 (mL) = ピロイ投与量 (mg) ÷ 20 . . . mL
- (C) 必要生食量 (mL) = (A) - (B) mL